

幻の群生地？

あかうさぎやま

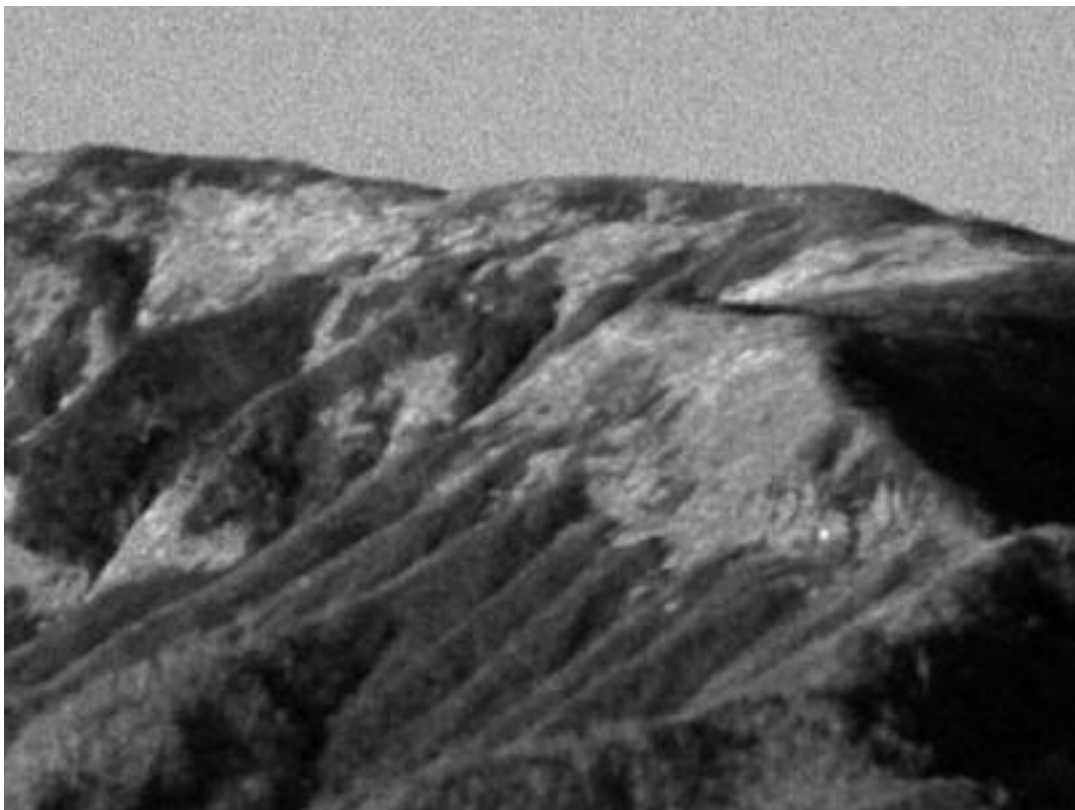
赤兎山のリュウキンカ群生地 (福井県勝山市)

赤兎山は、加越国境沿いにある山で、かつては縦走路でしか到達できない山であった。ところが、林道が整備され、日帰りで登れる山になった。赤兎とは奇妙な名前の山だと思っていた。白山の撮影を続けていた晩秋、赤兎山が望める場所からこの山を見ると、山頂直下に何と赤い兎の形が浮かび上がっていた。この山の山頂は笹に覆われている。一部崩れたか、岩がむき出しの所に、カリヤス等が生え、これが赤く紅葉しているようだ。名前の由来がようやく納得できた。

1980年代の春、荒れた林道を登って、登山口まで来た。すると、周辺の湿地にリュウキンカが群生していて、駐車場よりさらに下部にある平坦な台地も、低い木々の間にリュウキンカが群生している。その規模は

半端ない。リュウキンカの群生情報は、全国各地にあるが、これ程の個体数は他にないのではと思う。それではなぜ全国有数の群生地が知られていないのであろうか。それは、花期の4月下旬、それまで自由に通行できていた林道が、5月末頃まで閉鎖されるようになった事。これにより、花期に訪れる人が皆無になり、ネットにも書かれる事が無くなった。まさに幻の群生地となったのである。

2020年、鹿の食害は福井県大野市の里山まで迫っていた。さらに個体数が増えれば垂直分布もありえる。そして、標高1000mにある群生地も危うくなると想像される。



赤兎山の赤兎(白山登山口・別当出合近くより)

